

平成30年度大学コンソーシアムやまがた第1回総会議事録

日 時	平成30年6月25日(月) 16:00~17:03		
場 所	ゆうキャンパス・ステーション及びテレビ会議		
出席者	羽陽学園短期大学	: 渡邊 洋一	学長
	鶴岡工業高等専門学校	: 高橋 幸司	校長
	東北芸術工科大学	: 野村 真司	幹事会副委員長/常務理事
	東北公益文科大学	: 吉村 昇	学長→代理:阿部 公一 学長補佐
	東北文教大学/東北文教大学 短期大学部	: 鬼武 一夫	学長
	〃	: 大桃 伸一	幹事会副委員長/学部長・教授
	放送大学山形学習センター	: 佐藤 圓治	所長
	山形県立産業技術短期大学校	: 尾形 健明	校長
	山形県立農林大学校	: 石川 一夫	校長
	山形県立保健医療大学	: 前田 邦彦	学長
	〃	: 伊藤 文明	幹事会副委員長/理事・事務局長
	山形県立米沢栄養大学/山形 県立米沢女子短期大学	: 鈴木 道子	学長
	〃	: 奥山 卓郎	幹事会副委員長/理事・事務局長
	山形大学	: 小山 清人	学長
	〃	: 安田 弘法	幹事会委員長/理事・副学長
	〃	: 井上 榮子	ダイバーシティ推進ネットワーク 会議議長/准教授
	〃	: 布施 一明	事業評価委員会委員長/学務課長
	山形県	: 大森 康宏	総務部長 →代理:菅原 和彦 学事文書課長
欠席者	東北芸術工科大学	: 中山 ダイスケ	学長
	山形工科短期大学校	: 小幡 知之	校長
	山形大学	: 栗山 恭直	企画会議委員長/教授
陪席者	山形大学	: 出口 毅	副学長
	〃	: 伊藤 雅彦	教育・学生支援部長
	山形県	: 橋本 祥子	総務部学事文書課主事

I 開会

はじめに、事務局から今年度新たに委員になった4名の紹介、陪席者の紹介及び総会成立の報告があった。

II 議事

議題1 役員の選任について

会長から、会長、副会長及び幹事の任期が終了しているので選任願いたい旨の説明があり、事

事務局提案による下記の委員が役員に選任された。

(新役員)

会長 山形大学・小山 清人 学長
副会長 東北芸術工科大学・中山 ダイスケ 学長
同 山形県立保健医療大学・前田 邦彦 学長
同 東北公益文科大学・吉村 昇 学長
同 東北文教大学／東北文教大学短期大学部・鬼武 一夫 学長
監事 山形県立米沢栄養大学・鈴木 道子 学長
同 山形県・大森 康宏 総務部長

議題2 会則の改正(案)について

事務局から、会長から総会の簡素化のために開催を年1回の定期総会のみにはできないか。また、議事録署名人を会長一人にできないか等の意見があり、資料2のとおり現状に照らした見直しをした旨の説明があった。次いで会長から、総会は、現在3月と6月の2回開催しているが、内容は重複したものとなっているため、会則どおりに年1回の定期総会のみ開催とした。そのため、幹事会の審議事項を増やして対応してもらうこととなるが、現状とほとんど変わらないものと思われる旨の提案理由の説明があり、以下の意見交換があった。

(意見交換の内容)

- ・予算は総会にとって大きな決定事項だと思うので、電子メールで書面決議ができるのであれば、3月の幹事会で予算を立案後に電子メール決裁で賛否を確認しておき、6月の総会で最終的に認めてもらう方がよいと思う。その方が簡素化もできるし、また、当方の総会はそのようにしている。
- ・規約改正以前の話になるが、昨年までも3月の総会では収支予算(案)の決定、6月に正式な収支予算(案)を決定しており、正式に決定するまでの4月から6月までは決定しない案のまま実施されている。予算の使い方については、規約改正をしても今までの進め方と変わらないので、簡素化を考えた場合は改正案のとおりで良いと思われる
- ・手続きの議論であるが、簡素化することで不正をやるわけではないので、改正案で良いと思う。
- ・3月の幹事会では、ある程度の予算案がでて、それに従って実施するということであり、委員の交代があることを考えれば、6月に修正等があれば検討して決定することになるため、提案どおりでよいと思われる。

以上の検討の結果、会則の改正(案)のとおり承認された。

議題3 平成29年度事業報告について

議題4 平成29年度収支決算(案)について

議題5 監査報告について

平成29年度事業報告について、事務局から3月の総会報告から変わった点は、「高等教育山形宣言」プロジェクトの報告書を資料3別紙として添付したことであるとの説明があった。

続いて、平成29年度収支決算（案）について、事務局から資料4に基づき、3月の総会での報告から変わった点について、以下の説明があった。

（説明内容）

- ・収入は、前回ご報告した額9,749,710円と同額。
- ・支出では、大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業における「雪中棚田サッカー大会」の精算により3,316円の減額補正。
- ・連携事業における「単位互換の推進」で、通信費の残額385円を減額補正。
- ・大学コンソーシアムやまがた運営費では、総会等会議開催経費2,253円、事務局運営共通経費34,663円、事務局職員雇用経費39,908円を合わせて76,824円を減額補正。
- ・ゆうキャンパス・ステーション運営費では、電気料の執行残28,368円と事業推進費の執行残の6,481円を合わせて34,849円を減額補正。
- ・以上の減額補正分は全て予備費に繰り入れた。
- ・平成30年度への繰越額は2,324,636円となった。

次いで、会長から監査報告の依頼があり、鈴木監事から、平成30年5月15日に鈴木監事自身が、また、5月17日に山形県総務部長の大森監事が監査した結果、資料5のとおり、適正であった旨の報告があった。

以上の結果、議題3、4、5について承認された。

議事6 平成30年度事業計画（案）について

議事7 平成30年度収支予算（案）について

平成30年度事業計画（案）について、事務局から資料6に基づき説明があった。変更点としては特に連携事業において5月末に、山形大学から資料6別紙の講演会開催について、本コンソーシアムに主催依頼があり、臨時幹事会を開催して検討いただいた結果、本コンソーシアム主催事業とすることになったため、「講演会の開催」として追加した旨の説明があった。

続いて、平成30年度収支予算（案）について、事務局から資料7に基づき以下の説明があった。

（説明内容）

- ・収入において、「機関負担金収入」は、4,294,479円、「ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金」は、2,960,000円と前回説明と同額。また、「繰越金」は、資料3の収支決算書の額2,324,636円である。これに雑収入30円を加えた9,579,145円が収入予算額となる。
- ・支出において、支出の内訳は、繰越金が増えた分はそのまま予備費に入れたので、予備費以外の内訳は3月に説明した額と同額となっている。従って、支出予算額は、収入予算額と同額の9,579,145円となる。

以上の結果、議題6及び議題7について承認された。

議題 その他

会長から、席上配布した資料「力強い経済成長の実現に向けた重点的な取り組み」に基づき、これは、いわゆる骨太の方針における来年度の予算に向けての内閣府の方針である。1頁左には教育の無償化、右側に大学改革があって、一番下に「大学の連携・統合」があり、これに関して「地域連携プラットフォーム」の構築と「大学等連携推進法人」の創設などと具体的な話が出てくる。我々の方向としては、山形県に地域連携プラットフォームを立ちあげてもらいたいと思っており、この構成は地方自治体、会社、大学、高等機関とあるので第三者になるのかなと思っ
ている。2頁目は生産性革命で閣議決定した中に「ノベーションを生み出す大学改革と産学官連携」があり、そこには40歳未満の教員を増やすこと、論文数あるいは引用数の多い論文を増やすこと、など具体的な数字が載っており、無視できない内容なので本日紹介した。また、大学コンソーシアムとしては、地域連携プラットフォームを立ち上げて、地域の高等教育をどうするかをいろいろな人から意見を聞いて求めていく旨の説明があった。

このことについて、以下の意見交換が行われた。

(意見交換の要旨)

- ・大学の連携・統合については、ほかの地域の国立大学で話題になっているが、成り行きを見ていきたいと思っている。また、無償化について、先日公立大学協会で文科省や無償化に詳しい方の講演を聞いたところでは、無償化を進める財源については曖昧な部分があるので、今後の成り行きを注意して見ていきたいと思っている。
- ・大学の連携・統合等については、各地域でそれぞれいろいろな形で検討されているようだが、いずれの地域も簡単にはいかないようである。
- ・方向性については難しいと思うが、第三者的な形で議論を始めるというのは重要なことである。全国的には農林大学校もしくは農業大学校が専門職大学化となることを視野に入れる必要がある。大学の連携・統合については、その時にきちんと議論に乗れるように考えておく必要があり、県とも協議していきたい。また、高等教育の無償化について、文系の短期大学などは難しいが、実際に経済的に厳しい学生がいるので、対象から除外することがないようにと意見をしている。
- ・山形県の高等教育機関は全国では珍しくそれぞれが比較的に特徴を持って重なっていないので、それをどう生かしていくか。いまのアンブレラ構想になってきても、その中でそれぞれが特徴をどう生かして、今後どういうシステムを作っていくかだが、山形県でどういう人材を養成し、かつ県内へどう定着させて全体の発展につなげていくかが一番の目標になるので、このことを踏まえて、第三者がどう検討をするのかが重要なことになってくる。従って、たとえ答えが出なくとも意見交換をしていくこととそういう場も作っていかなければならない。
- ・一つの方法として、大学等が中心に情報交換を深めて行っただけである段階で第三者が入っていくといった方法もあるのかと思われる。
- ・県内の高等教育機関への進学率が減少していく中、県として県内にある高等教育機関をどのようにすればよいと思っているのか。そこは県で考えてもらいたい。県は行政としてのリーダーシップをとって子供たちの将来、山形の将来を常に考えてもらいたいというのが希望である。山形の高等教育機関をきちんと残して、よい教育をしてもらって、山形県の発展につなげていこうというのが県民一人一人の考えだと思っている。
- ・受験生を山形に引き留めるためにはどうすればよいかということは他人事ではないが、そ

の対応は大学だけの力ではできない。それには行政も一体となって、山形県を今後どうしていくのか、そのために高等教育機関はどうあるべきか、どういう人材を育ててほしいのかの明快な方針がなければいけない。

以上の意見交換の後、会長から、ここで何か決定する事ではないが、これまでの意見交換を踏まえて、「地域連携プラットフォーム」か「大学等連携推進法人」へ向けてのワーキングなど、平成31年度の政府予算案の方針ともなっているので、(県の)課長や知事とも相談していきたい旨の話があった。

以上

【配布資料】

資料 No. なし 総会名簿

資料 1… 役員を選任

資料 2… 大学コンソーシアムやまがた会則(改正案)

資料 3… 平成29年度大学コンソーシアムやまがた事業報告書

(別紙)… 高等教育山形宣言プロジェクト・活動報告書(2件)

資料 4… 平成29年度大学コンソーシアムやまがた収支決算書(案)

資料 5… 監査報告

資料 6… 平成30年度大学コンソーシアムやまがた事業計画書(案)

(別紙)… 林修氏講演会(山形大学からの依頼文)

資料 7… 平成30年度大学コンソーシアムやまがた収支予算書(案)

参 考… 平成29年度大学コンソーシアムやまがた第2回総会議事録

(平成30年3月27日開催)

席上配布… 力強い経済成長の実現に向けた重点的な取り組み

議事録署名人

山形 人

会長/山形大学長